

# 習熟度別クラス編成に関する一考察 —英語音の識別力と聴き取りによる理解力の面から— A study on the efficacy of ability grouping — in the field of aural perception and listening comprehension in English—

笹 谷 孝

The purpose of this study is to examine the efficacy of ability grouping in English learning. This year I taught two junior classes divided according to the ability. At the beginning, the status quo of the students' aural perception and listening comprehension of the English language was examined and was compared with that of the juniors I taught last year. Finding that there is little difference between them, the same listening exercises were designed and performed. Two tests (i.e., pre-and-post) were given at an interval of about three months. The results of the two tests show that the desired purpose has been achieved to some extent.

キーワード：LL (Language laboratory 語学演習室)、英語音の識別力と聴解力、  
事前テストと事後テスト、自然学級と習熟度別クラス編成

## 目 次

- I はじめに
- II 事前テストについて
- III 事前テストの結果について
- IV 事後テストの結果について
- V 事前テストと事後テストの比較について
- VI 授業評価について
- VII おわりに

## I はじめに

平成11年(1999年)度の前期、3年生の英語「LLⅢ」を2クラス担当した。その実践の内容は「英語音の識別力と聴き取りによる理解力について」と題して『宮崎公立大学人文学部紀要第7巻第1号』(1999年)で報告した。平成12年(2000年)度の前期も3年生の英語「LLⅢ」を2クラス担当した。前回の成果を生かすため、今回も英語音の識別力と聴き取りによる理解力の養成を主たる目的とした。ただし、前回は自然学級編成による等質の2クラスであったのに対して、今回の2クラスは学生の希

望選択による基礎クラスと応用クラスであった。今回も2クラスとも受講者は全員、初めて担当する学生であった。LL (Language Laboratory) という科目の特性上、今回も、授業に入る前に、受講者一人一人について、英語に関する「音の識別力」並びに「聴き取りによる理解力」の実態の調査を行った。

前回との比較データを取るため、今回も前回と同じく、音の識別力の調査については THE SONY LANGUAGE LABORATORY により作成されたテープGENERAL ENGLISH TEST (T-101) の Aural Perception Test (音の識別力テスト) を用いた。聴き取りによる理解力についてもGENERAL ENGLISH TEST (T-101) のAural Comprehension Test (聴き取りによる理解力テスト) と、メリス研究所のテープ English Aural Comprehension 中級 I・II Lesson 2 の No. 1 から No. 25 および Lesson 3 の No. 1 から No. 25 までの計50問を利用した。

授業に先立ってのテスト (以下、「事前テスト」と言う。) の実施・分析の結果、「音の識別力」、「聴き取りによる理解力」 (以下、「聴解力」と言う。) とも、やはり、基礎力が極めて低く、また、学生間にかかなりの差があることが分かった。そこで、前回と同様の措置として、受講者に実態を理解・認識させ、開講に先立って示していた講義計画を少し変更し、4月から7月まで週1回、計12回の毎時間、聴解力の養成に重点を置いた。また、全員にその教材を録音して持ち帰らせ、必要に応じて自主学習をさせ、次週に答え合わせを行った。

そして、最終時間に、「事後テスト」として、同じテストを実施して効果の有無を確かめた。以下は各テストの内容と結果の報告であるが、必要に応じて、前回のデータを添えて比較のための参考資料としたい。

## II 事前テストについて

三種類のテストはすべて前回用いたものと同じであるので、それぞれのテストの形式のみを記述し、問題の内容および解説については、末尾に資料として付記する。

### 1 Aural Perception Test

このテストは、音 (音素) の識別力を測る聴覚力テストで、問題は全部で50題。先ず、解答用紙が配付される。解答用紙には各問に対して 0 1 2 3 の四つの選択肢が用意されている。解答方法は、問題番号 (1, 2, 3... 50) が言われた後に、似かよった文章が三つ続いて読まれる。読まれた三つの文章のうち、同一の文二つ以上を選ぶ。全ての文が異なっている場合は0 (ゼロ) を選ぶ。従って、解答は、

- 1) 0 (1) (2) 3
- 2) 0 1 (2) (3)
- 3) 0 (1) 2 (3)

4) 0 ① ② ③

5) ④ 1 2 3 の5通りとなる。

テストは次のような指示(全てテープによる)で始まる。

You are going to have an Aural Perception Test. This test is to see if you can notice the difference between two or three different English sounds. In each question you will hear three sentences. Circle the numbers of the sentences that are the same. When none of the sentences are the same, circle zero.

Example A : It's a hole. | The first and second sentences are the same.

It's a hole. | Circle 1 and 2.

It's a goal. |

Example B : It's a goal. | All of the three sentences are the same.

It's a goal. | Circle 1, 2, and 3.

It's a goal. |

Example C : It's a goal. | None of the three sentences are the same.

It's a hole. | Circle zero.

It's a pole. |

Now, you try it.

問題の内容および解説については末尾の「資料1」を参照いただきたい。

## 2 Aural Comprehension Test

このテストは、話された英語を聞いて、すぐに理解するという聴き取りによる理解力のテストで、問題は全部で50題。チャートを見ながら行う。問題番号が言われた後に、文章が一つだけ読まれる。その読まれた文がチャートのA, B, Cの絵のうちのどれを表したものが判断し、合致する絵の符号(A, B, C)を解答用紙上の符号に○をつけて答える。

テストは、チャートと解答用紙が配付された後、次のような指示と解答方法の説明で始まる。

You are going to have an Aural Comprehension Test. Listen to the tape and pick the right picture that fits the given sentence from among the pictures A, B, and C.

Example : No. 51. This is a man . Picture C fits the given sentence. Circle C.

Now, you try it.

問題の内容および解説については末尾の「資料2」を参照いただきたい。

## 3 メリス・テープ テスト

THE SONY LANGUAGE LABORATORY により作成されたテープGENERAL ENGLISH TEST (

T-101) のAural Perception TestとAural Comprehension Test はセットになっている。しかし、Aural Comprehension Test は大学生には少し易しすぎるし、三つの選択肢から一つを選ぶのでは偶然性が入り込むのは避けられない。そこで、メリス・テープのテストを併用した。メリス・テープは初級I・II、中級I・II、中級III・IV、上級I・IIの四つのシリーズから成っている。英語の質問に対して数字、アルファベットの文字または英語の単語で答えるクイズ形式で一貫している。従って、multiple choice (多肢選択法) の欠点を免れる利点がある。今回も、中級I・II Lesson 2のNo.1からNo.25、およびLesson 3のNo.1からNo.25までの計50問を利用した。

問題の内容および解説については末尾の「資料3」を参照いただきたい。

### Ⅲ 事前テストの結果について

テストの結果を生かすためには、被験者グループから逸脱している者の成績を、被験者群の「中心化傾向」と「散布度」の両側面から視覚化する必要がある。中心化傾向は、「平均値」、「最頻値」、「中央値」、「中点」等によって判断されるが、今回も、平均値と中点だけを採用した。「中点」は、最高値と最低値の差を2で割った数に最低値を加えて得られるが、最高値と最低値の和を2で割って簡単に得られる。個々の成績が中心化傾向からどのぐらい逸脱しているかを探る手がかりが散布度である。散布度には、「範囲」、「標準偏差」、「分散」が指標とされる。「範囲」は測定値の「最高点-最低点+1」で得られる。また、「標準偏差」は各得点と平均点の差を二乗し、その合計を受験者数で割った数の平方根で得られる。「分散」は標準偏差値を二乗した値と同じであるので、今回も割愛した。

基礎クラスA組および応用クラスE組で共通のテストを実施したが、三種類のテストをそれぞれ事前、事後の二回とも受験した74名についてのデータは次の通りである。

表1-1 2000年4月10日実施 事前テスト結果(2クラス分)

	AP	AC	メリス
受験者数	74.00	74.00	74.00
項目合計数	50.00	50.00	50.00
平均値	26.00	35.31	12.38
中点	26.50	34.00	22.00
最低-最高	13-40	22-46	0-44
範囲	28.00	25.00	45.00
標準偏差	5.03	5.01	8.16

注：・APは Aural Perception Test      ・ACは Aural Comprehension Test  
 ・メリスはメリス・テープ テスト      ・各テストとも50点満点  
 ・数値は小数第3位を四捨五入して得たもの  
 (以下同じ)

これに対して、前回のデータは次の通りであった。

表1-2 1999年4月12日実施 事前テスト結果(2クラス分)

	AP	AC	メリス
受験者数	100.00	100.00	100.00
項目合計数	50.00	50.00	50.00
平均値	26.76	36.86	11.84
中点	27.00	35.00	19.50
最低－最高	18-36	24-46	0-39
範囲	19.00	23.00	40.00
標準偏差	4.54	4.71	7.07

受験者数の差（前回は100名だったのに対して、今回は75名）を除けば、今回の三つのテストの合計150の項目についての個々の分析結果の傾向は、前回のものとの比較検討において顕著な差は見られないので割愛する。全体としては、表1-1と表1-2から明らかなように、今回は前回に比べて、AP AC メリスで、標準偏差において +0.49 +0.30 +1.09、範囲において+9.00 +2.00 +5.00 と散布度は大きい、平均値においては -0.76 -1.55 +0.54 であり、受講者の識別力、聴解力とも大差がないことが判明した。従って、今回も前回の授業内容・方法を踏襲することにより同様の教育効果をあげる見通を立てて授業を始めた。

今回も、英語音の識別力の養成については、採点の結果に基づき、受講者一人一人に各自の弱点を意識してそれを克服するよう指示し（「資料4」参照）、各自の努力に委ねることとした。そして、聴解力の養成に重点を置くことにして、前回の演習方法と手順を踏襲した。

今回が前回と大きく異なる点は、クラス分けの方法にあった。前回は等質の自然学級であったのに対して、今回は受講者の自由選択によるものの、基礎クラスと応用クラスの習熟度別クラス編成であった。基礎クラスA組および応用クラスE組のデータは、次の通りである。

表2-1 2000年4月10日実施 事前テスト結果(クラス別)

	A組			E組		
	AP	AC	メリス	AP	AC	メリス
受験者数	29.00	29.00	29.00	45.00	45.00	45.00
項目合計数	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00
平均値	22.90	32.45	7.55	28.00	37.16	15.49
中点	22.00	31.00	10.00	30.00	36.00	22.00
最低－最高	13-31	22-40	1-19	20-40	26-46	0-44
範囲	19.00	19.00	19.00	21.00	21.00	45.00
標準偏差	4.36	4.78	4.38	4.41	4.27	8.54

最低-最高、範囲、標準偏差の数値から判断して、理想的な習熟度別クラス編成とは言い難いのは明らかである。しかし、E組はA組と比べて、AP AC メリスで、平均値において +5.10 +4.71 +7.94、中点において +8.00 +5.00 +12.00 と大差がつき、受講生の自主選択にも拘わらず、それなりの中心化傾向が見られるクラス編成ができたと思う。これを、前回のケースと比較してみよう。

表2-2 1999年4月12日実施 事前テスト結果(クラス別)

	x組			y組		
	AP	AC	メリス	AP	AC	メリス
受験者数	51.00	51.00	51.00	49.00	49.00	49.00
項目合計数	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00
平均値	27.29	37.45	12.24	26.20	36.24	11.43
中点	27.50	35.00	15.00	27.00	36.00	19.50
最低-最高	19-36	24-46	1-29	18-36	26-46	0-39
範囲	18.00	23.00	29.00	19.00	21.00	40.00
標準偏差	4.32	4.57	5.92	4.75	4.81	8.14

自然学級編成の散布度の大きい二つの等質クラス編成よりは効果的な授業の展開ができる可能性が大きいのは当然である。

習熟度別クラス編成をするためには、普通、プレイズメント・テスト(クラス分け試験)の結果に基づいてクラス分けが行われる。しかし、今回は初めての試みでもあり、学生の意志を尊重する立場から、学生各自の自己評価と学習意欲に従って、基礎クラスA組か応用クラスE組を選ばせた。その結果編成された2クラス(A組とE組)および2クラス全体の事前テストのデータは、次の通りである。

表3-1 2000年4月10日実施 事前テスト合計点

	A組	E組	全体
受験者数	29.00	45.00	74.00
項目合計数	150.00	150.00	150.00
平均値	62.90	81.16	74.00
中点	64.00	93.00	87.00
最低-最高	44-84	56-130	44-130
範囲	41.00	75.00	87.00
標準偏差	9.48	14.49	15.54

このデータに基づいてクラス分けをしたと仮定する基礎クラスを仮A組、応用クラスを仮E組として、現実のA組、E組との対比を示すと、次の通りである。

表3-2 現実のクラスと仮クラスとの対比

	仮A組	A組	誤差	仮E組	E組	誤差
受験者数	33.00	29.00	4.00	41.00	45.00	-4.00
項目合計数	150.00	150.00	0.00	150.00	150.00	0.00
平均値	60.91	62.90	-1.99	84.54	81.16	3.38
中点	56.50	64.00	-7.50	100.00	93.00	7.00
最低-最高	44-69	44-84	(0)-(-15)	70-130	56-130	(14)-(-0)
範囲	26.00	41.00	-15.00	61.00	75.00	-14.00
標準偏差	7.01	9.48	-2.47	12.11	14.49	-2.38

注：受験者数の誤差は、同点（69点）の者が5名いたために生じたものである。

A組には 仮A組の範疇から逸脱している者、すなわち70点以上の者が7名、E組には仮E組の範疇から逸脱している70点未満の者が11名含まれている。それらの受講者の個々の得点データは、次の通りである。

表3-3 事前テストでA組中70点以上の者

	A P	A C	メリス	合計
1	25	40	19	84
2	23	36	17	76
3	30	39	6	75
4	27	34	12	73
5	29	33	10	72
6	22	39	10	71
7	21	41	9	71
平均	25.29	37.43	11.86	74.57

表3-4 事前テストでE組中70点未満の者

	A P	A C	メリス	合計
1	26	30	0	56
2	21	31	6	58
3	20	34	5	59
4	24	34	4	62
5	23	37	5	65
6	23	26	16	65
7	30	31	6	67
8	26	38	5	69
9	29	35	5	69
10	21	33	15	69
11	25	36	8	69
平均	24.36	33.18	6.82	64.36

注：個人番号は、事前テストの合計点の得点順の番号であり、実際の名簿の番号とは無関係。

それぞれのグループを、集団としてまとめると、次のようになる。

表3-5 事前テストでA組中70点以上のグループ

	AP	AC	メリス	合計
受験者数	7.00	7.00	7.00	7.00
項目合計数	50.00	50.00	50.00	150.00
平均値	25.29	37.43	11.86	74.57
中点	25.50	37.00	12.50	77.50
最低-最高	21-30	33-41	6-19	71-84
範囲	10.00	9.00	14.00	14.00
標準偏差	3.50	3.10	4.60	4.58

表3-6 事前テストでE組中70点未満のグループ

	AP	AC	メリス	合計
受験者数	11.00	11.00	11.00	11.00
項目合計数	50.00	50.00	50.00	150.00
平均値	24.36	33.18	6.82	64.36
中点	26.00	32.00	8.00	62.50
最低-最高	22-30	26-38	0-16	56-69
範囲	9.00	13.00	17.00	14.00
標準偏差	3.23	3.49	4.71	4.88

A組で70点以上のグループはA組と比べて、AP AC メリスで、平均値において+2.39 +4.98 +4.31、中点において+3.50 +6.00 +2.50である。一方、E組で70点未満のグループはE組と比べて、AP AC メリスで、平均値において-3.64 -3.98 -8.67、中点において-4.00 -4.00 -14.00である。いずれも、比率としてはかなり高く、指導上配慮を要する数値である。

#### IV 事後テストの結果について

全体としての結果の分析と個々の学生に対する指導のポイントは、前回とほぼ同じであるので、ここでは割愛するが、次の「表4-1」のデータを「表2-1 2000年4月10日実施 事前テスト結果(クラス別)」と比較すると、その成果は明らかである。

表4-1 2000年7月24日実施 事後テスト結果(クラス別)

	A組			E組		
	AP	AC	メリス	AP	AC	メリス
受験者数	29.00	29.00	29.00	45.00	45.00	45.00
項目合計数	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00
平均値	24.45	35.34	17.62	29.67	39.27	28.07
中点	20.50	31.00	24.50	27.00	37.50	24.50
最低－最高	8-33	18-44	5-44	12-42	29-46	4-45
範囲	26.00	27.00	40.00	31.00	18.00	42.00
標準偏差	5.45	5.16	7.77	5.97	4.11	10.02

平均値だけを見ても、AP AC メリスの順に、A組で、1.55点 (6.77%) 2.89点 (8.91%) 10.07点 (133.38%)、E組で、1.67点 (5.96%) 2.11点 (5.68%) 12.58点 (81.21%) の上昇となっている。伸び率は、応用クラスのE組でも大きいのが、基礎クラスのA組が更に上回っているのは注目に値する。

2クラス分をまとめて統計を取ると、次の通りである。

表4-2 2000年7月24日実施 事後テスト結果(2クラス分)

	AP	AC	メリス
受験者数	74.00	74.00	74.00
項目合計数	50.00	50.00	50.00
平均値	27.62	37.73	23.97
中点	25.00	37.50	24.50
最低－最高	8-42	29-46	4-45
範囲	35.00	18.00	42.00
標準偏差	6.28	4.91	10.49

同様に、全体としては、「表1-1 2000年4月10日実施 事前テスト結果(2クラス分)」との比較において、平均値で、AP AC メリスの順に、1.62点 (6.23%) 2.42点 (6.85%) 11.59点 (93.62%) の上昇となっている。

なお、総合的な学習効果を判断するために三つのテストの合計点をみると、次の通りである。

表4-3 2000年7月24日実施 事後テスト合計点

	A組	E組	全体
受験者数	29.00	45.00	74.00
項目合計数	150.00	150.00	150.00
平均値	77.41	97.02	89.34
中点	79.50	86.50	85.50
最低-最高	49-110	51-122	49-122
範囲	62.00	72.00	74.00
標準偏差	13.73	17.39	18.64

これを、「表3-1 2000年4月10日実施 事前テスト合計点」のデータと比較すると、平均値において、A組 E組 全体の順に、14.51点(23.07%) 15.86点(19.54%) 15.34点(20.73%)の上昇となっており、学習効果が歴然としている。

なお、事前テストの成績で、各クラス集団から逸脱していた者についての結果は、次の通りである。まず、それぞれのグループの事後テストの結果を、集団としてまとめると、次のようになる。

表4-4 事前テストでA組中70点以上のグループの事後テスト

	AP	AC	メリス	合計
受験者数	7.00	7.00	7.00	7.00
項目合計数	50.00	50.00	50.00	150.00
平均値	22.57	38.86	25.29	86.71
中点	17.50	39.00	30.00	86.50
最低-最高	8-27	37-41	16-44	63-110
範囲	20.00	5.00	29.00	48.00
標準偏差	6.65	1.46	9.74	14.61

このグループ全体としては、「表3-5 事前テストでA組中70点以上のグループ」との比較において、平均値で、AP AC メリス 合計の順に、-2.72点(-10.76%) 1.43点(3.82%) 13.43点(113.24%) 12.14点(16.28%)の上昇となっている。

表4-5 事前テストでE組中70点未満のグループの事後テスト

	AP	AC	メリス	合計
受験者数	11.00	11.00	11.00	11.00
項目合計数	50.00	50.00	50.00	150.00
平均値	24.82	37.00	19.55	81.36
中点	20.50	37.50	19.50	82.50
最低-最高	12-29	31-44	9-30	72-93
範囲	18.00	14.00	22.00	22.00
標準偏差	4.56	3.58	6.95	6.48

このグループ全体としては、「表3-6 事前テストでE組中70点未満のグループ」との比較において、平均値で、AP AC メリス 合計の順に、0.46点 (1.89%) 3.82点 (11.51%) 12.73点 (186.66%) 17.00点 (26.41%) の上昇となっている。

## V 事前テストと事後テストの比較について

「表1-1 2000年4月10日実施 事前テスト結果(2クラス分)」と「表4-2 2000年7月24日実施 事後テスト結果(2クラス分)」から、次のデータが得られた。

表5-1 事前テスト/事後テスト/伸びの結果(2クラス分)

	事前テスト			事後テスト			伸び		
	平均	最低	最高	平均	最低	最高	平均(率)	最低	最高
A P	26.00	13	40	27.62	8	42	1.62( 6.23%)	-5	2
A C	35.31	22	46	37.73	29	46	2.42( 6.85%)	7	0
メリス	12.38	0	44	23.97	4	45	11.59(93.62%)	4	1

同様に、それぞれA組とE組については、「表2-1 2000年4月10日実施 事前テスト(クラス別)」と「表4-1 2000年7月24日実施 事後テスト(クラス別)」から、次のデータが得られた。

表5-2 事前テスト/事後テスト/伸びの結果(A組分)

	事前テスト			事後テスト			伸 び		
	平均	最低	最高	平均	最低	最高	平均(率)	最低	最高
A P	22.90	13	31	24.45	8	33	1.55( 6.77%)	-5	2
A C	32.45	22	40	35.34	18	44	2.89( 8.91%)	-4	4
メリス	7.55	1	19	17.62	5	44	10.07(133.38%)	4	25

表5-3 事前テスト/事後テスト/伸びの結果(E組分)

	事前テスト			事後テスト			伸 び		
	平均	最低	最高	平均	最低	最高	平均(率)	最低	最高
A P	28.00	20	40	29.67	12	42	1.67( 5.96%)	-8	2
A C	37.16	26	46	39.27	29	46	2.11( 5.68%)	3	0
メリス	15.49	0	44	28.07	4	45	12.58(81.21%)	4	1

また、A組、E組の中に混在していた「事前テストで点数上逸脱していた者のグループ」については、次の通りである。

表5-4 事前テスト/事後テスト/伸びの結果(事前テストでA組中70点以上のグループ)

	事前テスト			事後テスト			伸 び		
	平均	最低	最高	平均	最低	最高	平均(率)	最低	最高
A P	25.29	21	30	22.57	8	27	-2.72(-10.76%)	-13	-3
A C	37.43	33	41	38.86	37	41	1.43( 3.82%)	4	0
メリス	11.86	6	19	25.29	16	44	13.43(113.24%)	10	25

表5-5 事前テスト/事後テスト/伸びの結果(事前テストでE組中70点未満のグループ)

	事前テスト			事後テスト			伸 び		
	平均	最低	最高	平均	最低	最高	平均(率)	最低	最高
A P	24.36	22	30	24.82	12	29	0.46( 1.89%)	-10	-1
A C	33.18	26	38	37.00	31	44	3.82( 11.51%)	5	6
メリス	6.82	0	16	19.55	9	30	12.73(186.66%)	9	14

また、A組、E組の中に混在していた「事前テストで点数上逸脱していた者のグループ」については、次の通りである。

表6-1 平均値の伸び率(%)

	AP	AC	メリス
A 組	6.77	8.91	133.38
E 組	5.96	5.68	81.21
全 体	6.23	6.85	93.62

前述の通り、この授業の主たる目的は、「メリス」テストによって測定できるような、文章を聞いて理解する「聴解力」の養成にあった。「AP」テストによって測定できるような、音素の識別能力や、「AC」テストによって測定できるような、視覚とマッチしての聴解力の養成を意図した演習は行わなかった。しかし、上のデータが示す通り、「メリス」での目覚ましい伸びに附随して、これらの分野でも、かなりの上昇率が得られたのは望外のことであった。

また、今回初めて試みた習熟度別クラス編成については、基礎クラスA組、応用クラスのE組とも、順調に成績が向上していることが分かった。

懸案の、A組、E組の中に混在していた「事前テストで点数上逸脱していた者のグループ」について、A組、E組の中の各グループをそれぞれA'組、E'組とし、A組、E組と比べると、次の通りである。

表6-2 A'組とA組の平均値(伸び率)の差

	AP	AC	メリス
A'	-10.76	3.82	113.24
A	6.77	8.91	133.38
差	-17.53	-5.09	-20.14

表6-3 E'組とE組の平均値(伸び率)の差

	AP	AC	メリス
E'	1.89	11.51	186.66
E	5.96	5.68	81.21
差	-4.07	5.83	105.45

このデータは、余裕をもって基礎クラスに入っても油断は禁物であることと、背伸びをしてでも意欲をもってチャレンジする者には「動機づけ」(motivation)と「レディネス」(readiness)の威力が発揮されることを示唆している。参考までに、事前テストの成績で、各クラス集団から逸脱していた者についての個人個人のデータを示すと、次の通りである。

表7-1 事前テストでA組中合計70点以上の者

	A P			A C			メリス			合計		
	事前	事後	差	事前	事後	差	事前	事後	差	事前	事後	差
1	25	24	-1	40	40	0	19	27	8	84	91	7
2	23	27	4	36	37	1	17	31	14	76	95	19
3	30	8	-22	39	39	0	6	16	10	75	63	-12
4	27	25	-2	34	41	7	12	21	9	73	87	14
5	29	22	-7	33	37	4	10	19	9	72	78	6
6	22	27	5	39	39	0	10	44	34	71	110	39
7	21	25	4	41	39	-2	9	19	10	71	83	12
平均	25.29	22.57	-2.71	37.43	38.86	1.43	11.86	25.29	13.43	74.57	86.71	12.14

注：個人番号は、事前テストの合計点の得点順の番号であり、実際の名簿の番号とは無関係。

表7-2 事前テストでE組中合計70点未満の者

	A P			A C			メリス			合計		
	事前	事後	差	事前	事後	差	事前	事後	差	事前	事後	差
1	26	27	1	30	36	6	0	9	9	56	72	16
2	21	23	2	31	37	6	6	17	11	58	77	19
3	20	25	5	34	33	-1	5	23	18	59	81	22
4	24	25	1	34	38	4	4	30	26	62	93	31
5	23	29	6	37	35	-2	5	20	15	65	84	19
6	23	26	3	26	36	10	16	28	12	65	90	25
7	30	28	-2	31	41	10	6	13	7	67	82	15
8	26	25	-1	38	39	1	5	13	8	69	77	8
9	29	26	-3	35	31	-4	5	16	11	69	73	4
10	21	12	-9	33	44	11	15	28	13	69	84	15
11	25	27	2	36	37	1	8	18	10	69	82	13
平均	24.36	24.82	0.46	33.18	37.00	3.82	6.82	19.55	12.73	64.36	81.36	17.00

注：個人番号は、事前テストの合計点の得点順の番号であり、実際の名簿の番号とは無関係。

## VI 授業評価について

事前テストの結果と事後テストの結果を比較して、担当者としては所期の成果を収めたと評価しているが、授業を受けた学生たちの評価はどうなっているであろうか。

本学では、自己評価委員会の主導のもとに、今年度、「学生による授業評価」が実施されたが、この授業についての学生による評価の集計結果は、次の通りである。

授業科目名：LLⅢ（3年A組・E組）

担当教員：笹谷 孝

アンケートの回答方法：無記名回答

項目別5段階評価の評価基準：

強く思う	(非常に良い)	5
やや思う	(良い)	4
どちらとも言えない	(普通)	3
あまりそう思わない	(あまり良くない)	2
全くそう思わない	(良くない)	1

文章による評価：

- A. 優れていると思われる点とその理由
- B. 問題点とその改善策について
- C. 授業評価アンケートについて

### 5項択一による5段階評価

あなたはこの科目にどのように取り組みましたか？

	平均点		
	A組	E組	全体
Q1. 私はこの科目に期待をもって臨んだ。	3.46	3.92	3.73
Q2. 私はこの授業によく出席した。	4.07	4.25	4.18
Q3. 私の受講態度はよかった。	3.79	4.05	3.95
Q4. 私はこの科目に意欲をもって積極的に取り組んだ。	3.28	3.76	3.56
Q5. 私はこの科目について予習や復習をした。	2.30	2.88	2.64
Q6. 私は授業内容について質問や発言をした。	1.77	2.17	2.01
Q7. 私はこの授業内容をよく理解できた。	3.15	3.73	3.48
Q8. 私にとってこの科目は得るものがあった。	3.64	4.03	3.87

教員は学生にどのように対応しましたか？

Q 9. 教員は授業中の重要な部分を強調あるいは要約してくれた。	4.10	4.25	4.12
Q 10. 教員はいつも授業時間をよく守った。	4.05	4.35	4.22
Q 11. 教員は読みやすい字を板書した。	3.92	3.90	3.91
Q 12. 教員はよく聞き取れる授業をした。	4.21	4.27	4.24
Q 13. 教員は授業時間を有効に用いていた。	3.87	4.33	4.13
Q 14. 教員は授業に情熱を持って臨んでいた。	4.31	4.56	4.45
Q 15. 教員は質問に適切な答えや意見を述べてくれた。	3.91	4.10	4.02
Q 16. 教員は授業を静粛に保つよう配慮していた。	4.15	4.32	4.25
Q 17. 教員は学生のレベルを把握して授業を行っていた。	4.03	4.06	4.04

この授業の全般についてどのように思いますか？

Q 18. この授業は講義計画書に沿って行われた。	4.05	4.14	4.10
Q 19. この授業ではビデオ、OHC、オーディオ機器等が効果的に利用された。	4.41	4.67	4.56
Q 20. 教科書や資料等は授業で役に立った。	4.51	4.51	4.51

## 担当教員のコメント（授業評価アンケート集計結果の感想）

無記名回答にも拘わらず真面目な回答が得られた。学生からの評価を真摯に受け止め、授業の改善の資料として活用したいが、次の点を付記しておく。

\*「Q 5. 私はこの科目について予習や復習をした。」について

今回のLL学習では、復習に重点を置き、予習は求められていなかった。

\*「Q 6. 私は授業内容について質問や発言をした。」について

今回のLL学習では、学習に先立つ説明・解説はできるだけ簡潔にすませ、指示に従って、直ちに実習・演習に入った。安易に質問することは奨励されなかった。必携の辞書（英和・和英・英英）を活用しての問題解決ないし発見学習であり、学習したことは毎時間提出して採点して返され、それが平常点として成績の20%を占めた。従って、Q 6に関する限りは、設問の妥当性（validity）の問題であり、学生の積極性や学習態度に問題があるのではない。

\*「Q 15. 教員は質問に適切な答や意見を述べてくれた。」について

6名が「該当しない」としたのは、Q 6と同じ理由によると思われる。

\*「Q 18. この授業は講義計画書に沿って行われた。」について

今年度は講義計画書作成後に習熟度別のクラス編成がなされたため、講義計画書の一部変更を余儀なくされた。変更後の講義計画については、プリントをして受講者全員に配付し、それに従って講義を実施した。この項目について、4名が未記入だったのは、上記の措置に対する判断に迷ったものと推測される。

文章による評価：(A. 優れていると思われる点とその理由 B. 問題点とその改善策について C. 授業評価アンケートについて)については、末尾の「資料5」を参照いただきたい。

## VII おわりに

「習得」(acquisition)を目指す外国語の「学習」(learning)の基本は、リスニング能力を身につけ、それを涵養することにある。それぞれの学習段階での総合力としての語学力は、聞く力によって支えられている。従って、ことは、とりわけ外国語を学ぶ者は、絶えず耳を鍛えることを怠ってはならないと考える。しかし、リスニング能力の育成は、漫然と聞くだけで達成されるものではない。リスニングはリーディングとともに、「発表的技能」(productive skills)としてのスピーキング、ライティングに対して、「受容的技能」(receptive skills)と言われる。しかし、リスニングは決して受身的なものではなく、能動的でダイナミックな言語活動である。

この認識に立って、今回も前回と同様に、リスニングの過程を説明する最も有力なモデルである「合成による分析」(analysis by synthesis)を念頭に置いてシラバスを作成した。これは、「聴き手も話し手と同じような生成システムを持っていて、耳から入ってくる音響の手がかりに基づいて、自分自身の中にも、それに対応する音声パターンを内部的に合成する。そして、実際に入ってくる信号が、仮説として予測したものに等しいか類似しているときには、その仮説を受け入れる。そうでない時にはそれを修正する。つまり、聴き手は耳から入ってくる音を単に分析するのではなくて、入ってくるであろう音声パターンに関する仮説を内部的に合成し、実際に入ってくる音をそれと照合して分析する」とする説である。

演習の手法は、今回も前回同様、認知科学や認知心理学に基づく「スキーマ」(schema)の理論によった。すなわち、内容に関する背景の知識としての内容スキーマ(content schema)と言語学的知識に関する形式的スキーマ(formal schema)のそれぞれの上位と下位の階層を、トップダウンとボトムアップの二方向の起動方法で具体的スキーマが引き出せるよう配慮した。

その成果は、今まで述べてきた通りである。習熟度別のクラス編成についての教育効果は、「表2-1」と「表4-1」、「表1-1」と「表4-2」、「表3-1」と「表4-3」との比較で、そして、「表5-1」、「表5-2」、「表5-3」、「表6-1」で見た通り、基礎クラスも応用クラスもそれぞれ順調に伸びた。しかし、「表6-2」が示す通り、事前テストで点数上逸脱していた者のグループ、特に、習熟度が高いのに基礎クラスに入った者のグループに問題が残った。この問題は、習熟度別クラス編成を今後も継続して行う場合の検討課題の一つとしたい。

## 参考文献

- Brown, J. D. 1996. *Testing in Language Programs*. Prentice Hall Regents.  
[和田 稔 (訳) 1999. 『言語テストの基礎知識』. 大修館書店.]
- ECOLA (education for communication and language). 英語科教育実践講座  
VTR 解説書. 英語科教育実践講座刊行会.
- Malmkjae, K. (Ed.) 1991. *THE LINGUISTICS ENCYCLOPEDIA*. Routledge.
- 大友賢二 1996. 『言語テスト・データの新しい分析法 項目応答理論入門』.  
大修館書店.
- 笹谷 孝 1999. 「英語音の識別力と聴き取りによる理解力について」. 『宮崎公立  
大学人文学部紀要第7巻第1号』.
- 土屋澄男 2000. 『英語科教育法入門』. 研究社出版.

### 資料 1

1. That's quite light.  
That's quite right.  
That's quite right.
2. He's going to live.  
He's going to live.  
He's going to leave.
3. Voting is interesting.  
Boating is interesting.  
Voting is interesting.
4. Don't pull them.  
Don't pool them.  
Don't pool them.
5. They hum all day.  
They hum all day.  
They hung all day.

紙面の関係で、以下は識別すべき音を含む単語を示すにとどめる。

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 6. force / horse   | 7. nuts / noughts |
| 8. tip / chip      | 9. run / rung     |
| 10. pin / pen      | 11. scene / sheen |
| 12. color / collar | 13. sink / think  |

- |                              |                            |
|------------------------------|----------------------------|
| 1 4. did it / digit          | 1 5. longing / logging     |
| 1 6. then / zen              | 1 7. leisure / ledger      |
| 1 8. letter / latter         | 1 9. heading / herring     |
| 2 0. guest / zest            | 2 1. rock / rack           |
| 2 2. lamp / lump             | 2 3. pass it / passed      |
| 2 4. seat / seats            | 2 5. ear / year            |
| 2 6. bird / birds            | 2 7. girls / gulls         |
| 2 8. hole / hall             | 2 9. had / heard           |
| 3 0. farm / firm             | 3 1. collected / corrected |
| 3 2. bolts / volts           | 3 3. soot / suit           |
| 3 4. hall                    | 3 5. pop / pup             |
| 3 6. mouse / mouth           | 3 7. raids / raise         |
| 3 8. ringing / rigging       | 3 9. teasing / teething    |
| 4 0. hit / hat / hut         | 4 1. blacked / blocked     |
| 4 2. pet / pat / putt        | 4 3. birds / buds          |
| 4 4. saw / sew               | 4 5. banning / burning     |
| 4 6. thirteen / thirty       | 4 7. butter / batter       |
| 4 8. in her / in our         | 4 9. all / wall            |
| 5 0. It sprays / It's praise |                            |

ついでながら、問題文の長さは、2語文(2問)、3語文(10問)、4語文(19問)、5語文(10問)、6語文(8問)、7語文(1問)で、平均4.3語である。所要時間は、テストについての説明及び指示(You are going to have an Aural Perception Test. から Now, you try it. まで)に1分42秒かかり、テスト自体に費やした時間は10分49秒である。

各問とも、テープによる問題は、ごく自然に、普通の速さで読まれる。3つの文は息継ぎのポーズだけで引き続き読まれる。6秒後に次の問題に移る。問題作成者、テープ吹き込み者が計算し意識したかは定かでないが、このテストは平均して、問・ポーズとも各6秒で、被験者には一定のリズムで解答できたのではないかと推測される。

## 資料2

1. I can't reach it.
2. It is very cold in the room.
3. She is running after the man.
4. They are walking through a shower.

5. You see many apples under the table.

以下は紙面の関係で省略するが、問題文も内容も少しずつ難しくなっていく。

ついでながら、問題の構成は全て1文で、複文(3問)、重文(6問)、単文(41問)である。文の長さは、4語文(2問)、5語文(2問)、6語文(8問)、7語文(14問)、8語文(4問)、9語文(7問)、10語文(4問)、11語文(4問)、12語文(2問)、13語文(1問)、15語文(1問)、16語文(1問)で、平均4.3語である。

各問とも、ごく自然に、普通の速さで読まれる。4秒後に次の問題に移る。

所要時間は、指示・説明に30秒、問題に7分30秒で計8分である。従って、1問に費やされる時間は、答えを○で囲む時間を含めて平均9秒である。

### 資料3

1. Beginning with the letter "S," form a word which means the status of someone before marriage.  
A six letter word.
2. Beginning with the letter "C," form a word which means a man and woman who are married.  
A six letter word.
3. "House" is the place where we live. If you change the third letter of the word "house" you can get a new word which means a certain four-legged animal. What is this new word?
4. "Zoo" is a park where many animals are kept. If you change the first letter of the word "zoo" you can get a certain adverb which means "also." What is this word?
5. "Bank" is the place where we keep our money. If you change the last letter of "bank" you can get a new word which means a group of musicians who play together. What is this new word?

以下省略するが、質問の内容は、バラエティに富み、多岐にわたる。50の設問の構成は、1文(4問)、2文(15問)、3文(20問)、4文(8問)、5文(3問)である。1問中の語数は、最少15語、最多44語、平均29語である。

各問とも、ごく自然に、普通の速さで読まれる。答えを記入するために5秒だけポーズが置かれる。所要時間は、ポーズを含めて合計14分40秒である。従って、1問平均17.6秒である。

**資料 4**

\_\_\_\_\_組 \_\_\_\_\_番

あなたは番号に○印のついたものの識別に弱点があります。

意識して弱点を克服するよう努力してください。

- |                           |                             |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1. light / right          | 2. live / leave             |
| 3. boating / voting       | 4. pull / pool              |
| 5. hum / hung             | 6. force / horse            |
| 7. nuts / noughts         | 8. tip / chip               |
| 9. run / rung             | 10. pin / pen               |
| 11. scene / sheen         | 12. color / collar          |
| 13. sink / think          | 14. did it / digit          |
| 15. longing / logging     | 16. then / zen              |
| 17. leisure / ledger      | 18. letter / latter         |
| 19. heading / herring     | 20. guest / zest            |
| 21. rock / rack           | 22. lamp / lump             |
| 23. pass it / passed      | 24. seat / seats            |
| 25. ear / year            | 26. bird / birds            |
| 27. girls / gulls         | 28. hole / hall             |
| 29. had / heard           | 30. farm / firm             |
| 31. collected / corrected | 32. bolts / volts           |
| 33. soot / suit           | 34. hall                    |
| 35. pop / pup             | 36. mouse / mouth           |
| 37. raids / raise         | 38. ringing / rigging       |
| 39. teasing / teething    | 40. hit / hat / hut         |
| 41. blacked / blocked     | 42. pet / pat / putt        |
| 43. birds / buds          | 44. saw / sew               |
| 45. banning / burning     | 46. thirteen / thirty       |
| 47. butter / batter       | 48. in her / in our         |
| 49. all / wall            | 50. It sprays / It's praise |

**資料5**

平成12年度前期「学生による授業評価アンケート」集計結果

授業科目名：LLⅢ（3年A組・E組）

担当教員：笹谷 孝

アンケートの回答方法：無記名回答

項目別5段階評価の評価基準：

強くそう思う	（非常に良い）	5
ややそう思う	（良い）	4
どちらとも言えない	（普通）	3
あまりそう思わない	（あまり良くない）	2
全くそう思わない	（良くない）	1

文章による評価：

- A. 優れていると思われる点とその理由
- B. 問題点とその改善策について
- C. 授業評価アンケートについて

5 項択一による5段階評価

あなたはこの科目にどのように取り組みましたか？

（本文に紹介済み）

教員は学生にどのように対応しましたか？

（本文に紹介済み）

この授業の全般についてどのように思いますか？

（本文に紹介済み）

文章による評価

A. 優れていると思われる点とその理由：

学生のコメント [記述式回答のまとめ]

A：優れていると思われる点とその理由（A組）

（ ）の中の数字は、同じ主旨の回答の数を示す。

- \*説明が分かり易い。（2）
- \*聴き取り能力が向上する。（2）
- \*毎回行うクイズやリスニングテストで力がつく。（2）
- \*授業がとてもテンポよく進んだし、実際に問題を解いて実力がついた。（2）

- \* 学生のレベルに合った教材が与えられ、それに対応した授業が行われた。
- \* 毎時間、自分の演習に熱中できる。
- \* 授業中に録音したテープを持ち帰り、復習ができる。
- \* 基礎を何回も反復練習できる。
- \* 教師が授業に対して熱意を持って取り組んでいたことを常に感じた。
- \* 教師の人柄が良い。
- \* 教師が優しい。
- \* ギャグを交えるところ。喋り方が好き。
- \* 英語の発音や聴き取りについてのテープを用いたこと。リスニング力がつく。
- \* 英語力の向上につながった。
- \* 時間配分がしかりしていて、授業がとてもスムーズだった。
- \* 解説を毎回してくれたので分かりやすかった。
- \* 時間が有効に使われた。暇な時間がなく、いつでも学習をしていて充実していた。
- \* リスニングを主にした学習方法で、テープに録音して繰り返し聞くことができるので、復習もしやすい。
- \* 聴き取りにくいところを詳しく説明し、リスニングの重要性を気付かせ、やる気を出させてくれたこと。
- \* 少し難しかったが、よく聴けば分かるレベルのリスニングが行われて、すぐくためになった。

A：優れていると思われる点とその理由 (E組)

- \* 多くの問題を解いたことで英語に慣れ、英語（特にヒアリング）の力がついた。(11)
- \* 自分の能力に合った学習に熱中できた。(10)
- \* 教師の説明が丁寧で明確だった。(9)
- \* ペアレッスンでヘッドセットを通して、いろいろな人と英語で会話できた。(6)
- \* どうにかして英語で意思を伝えるよう頑張れた。(6)
- \* 会話表現の多いテキストとクイズが役に立った。(5)
- \* 授業の内容が濃く、実践的で有意義だった。(4)
- \* 授業中に録音したテープを復習に繰り返し活用できたこと。(3)
- \* 最初にテストをして各自の問題点を知らされたこと。(2)
- \* 毎時間テストをし、次の時間に返し、解説してくれた。(2)
- \* 講義が興味深く、また、学生が取り組みやすいように配慮がなされていた。(2)
- \* 時間配分がよく、無駄がなかった。(2)
- \* ユーモアに富んでいた。

B：問題点とその改善策について（A組）

- \*時間の割に課題が多すぎた。（8）
- \*提出課題を仕上げるのに長時間昼食時にくい込んだ。（7）
- \*クイズの解答・解説にもっと時間をかけてほしい。（2）
- \*内容が少し単調だった。（2）
- \*遅刻すると教室に入れなかった。
- \*進度が速すぎた。

B：問題点とその改善策について（E組）

- \*時間の割に課題が多すぎた。（12）
- \*進度が速すぎた。（6）
- \*内容が難しかった。（4）
- \*発音練習もしたかった。（3）
- \*内容が少し単調だった。（3）
- \*息がつけず、疲れた。（でも、それは、頑張ったためで、いいこと。）（2）
- \*問題を解くときのヒントの与え方に工夫を加えてほしい。（2）
- \*LLだから仕方ないが、高校の授業のようだった。
- \*もう少し、解説を詳しくしてほしい。
- \*授業中に課題が仕上げられなかった。

C：授業評価アンケートについて（A組）

- \*アンケートをアンケートされる側が実施するのはおかしい。
- \*教師と学生間のコミュニケーションを取るのはいいことだ。
- \*結果を活用していただきたい。
- \*授業のレベル向上のために良いと思う。
- \*教師に学生の要望を聞いてもらえるいい機会だと思う。
- \*これからも実施してほしい。

C：授業評価アンケートについて（E組）

- \*いいことだと思う。（5）
- \*今後も続けてほしい。（4）
- \*教師にとっても学生にとってもよい反省材料になると思う。（3）
- \*結果を活用してほしい。（2）

- \*すべての授業で書かされるのは面倒だ。(2)
- \*設問の作り方が悪い。
- \*質問の内容には改善の余地がある。
- \*もっと細部にわたる設問が必要である。
- \*学生へのフィードバックが必要である。
- \*結果を公表してはどうでしょうか。
- \*あまり効果はないと思う。
- \*集計するのが大変だと思う。
- \*アンケートのために時間を費やすのが嫌である。
- \*教師も学生もお互いに責任感をもつようになって良い。
- \*結果をどのように利用するかを明示すべきである。

担当教員のコメント (授業評価アンケート集計結果の感想)

(本文に紹介済み)

